

夜11時、12時まで仕事して、  
お酒飲んで  
東京の不自然な生活に疑問をもつ  
たのが始まり

最初は就農を目指していたわけではなく、なんとなく自分たちの生活に疑問を持ったのが始まりです。婚約者だった奈々も大手企業に勤めていて、ハイヒールとスーツで夜中まで仕事してお酒飲んで、という毎日でした。

僕は、精密機械メーカーの知財部に勤務していましたが、やっぱり忙しくて奈々と同じような生活をしていました。自分の仕事はいろんなことに繋がっていて、あることを解決していてもまた別の問題を誘引している。だから、もつと悪い循環のなかに自分の仕事をおきたいと考えるようになりました。色々と考えた末、2人とも同じ時期に退社しました。奈々が28歳、僕が31歳ぐらいの時のことです。

飲食店を手伝うなかで  
目覚めた安全で  
美味しい野菜への意識

その頃、奈々の母親が東京で庭付きの古民家レストランを運営することになり、僕もかわり始めました。“からだにいい食事”をコンセプトに、素材にとことんこだわっていましたが、地元では有機野菜の調達に苦労していました。仕入先を探していた時に、山梨県北杜市の若い農家さんを紹介されました。農家さんたちから販路に困っていると聞き、若い農家を応援したいとの思いから野菜の仕入れとともに販売を始めました。続けているうちに野菜のこともつと知りたいたいと思えるようになり、山梨の農家を頻繁に訪ね始め、どんどん農家の知り合いが増えました。20代、30代の若い人たちが新規就農している現場を知って興味を持ち、太陽の光を浴び、土を触り、食べ物を作る喜びを感じる生活が心底羨ましくなり、就農へと気持ちが傾いていきました。



ヤング・ファーマーズからのレポート<sup>⑩</sup>

# 美しい里山で 生命力いっぱい の野菜を 育てています

欠掛 隆太・奈々  
静岡県賀茂郡南伊豆町





## 研修先をインターネットで探し、 全国行脚へ

就農すると決心して東京で情報収集を始めた。ところが、どれだけインターネットで調べても、実際にこの目で見てみないと分からないことっていっぱいありますよね。そこで、ワンボックスカーに荷物を積み、岡山、三重、静岡、四国など移住先の候補地を30か所以上、実際に見て回ると決めました。

農業について無知だった上に、旅の詳細な計画を立てられるほど土地勘も知恵も縁もなく、ほとんど無計画で東京を出てしまったという不安をずっと抱えていました。車中泊は経済的に安くて良いのですが、毎日の食事と入浴にはかなり苦労しました。気軽に安い風呂が見つかる、そこを車中泊の拠点としました。食事は夜暗くなつてからカセットコンロで作ることが多く、妻は精神的にかなり大変だったと思います。そんな日々が積み重なって、ある夜、妻が3回（一晩で）大泣きました。風呂とご飯と長い移動、不安と不慣れで限界だったんだ、とその時に気づきました。ただ、それでも妻は、止めたいた一言も言いませんでした。大きな衝撃を受けたのは、夢を抱く農業なのに、経営的に行き詰まってかなり厳しい生活を余儀なくされている方を訪ねた時でした。理想だけではなく、経営面もしっかり考えないといけない、とそ

から始めようとしていることは大きなりスクを抱えているんだと、まざまざと現実を知りました。厳しい現実を見る度に、自分たちの心は暗くなり、一方で一層決意が強くなった気がします。

約2か月かけて岡山、四国を中心に6000km走り、いろいろな場所を見て農家さんと話せたのはめちゃくちゃ大きな経験値となりました。日本のエーゲ海と呼ばれている岡山の牛窓では、景色は最高でも海がさほど綺麗ではないことに少しがっかりしました。それにもかかわらず、瀬戸大橋を渡った先の四国で劇的な出会いがあったのです。

## こんなに大規模でしっかり経営しているところは全国でも珍しい

出会ったのは秀明自然農法の若葉農園でした。探し当てられたのは、ほんとに偶然です。徳島県庁で「就農するための研修先を探している」と相談したら、若葉農園を紹介されました。

自然農法をされていて、こんなに大規模でしっかり経営しているところは全国でも珍しいと思います。若葉農園を選んだ大きな理由は、無農薬・無肥料・自家採種の自然農法で驚くほど経営がしっかりしている（自家採種はほぼ100%！）、規模が大きくて研修制度や給与待遇が充実している、社長の熱い志と社長夫人の素朴な人柄に暖かさを感じたことです。

研修生として受け入れてもらえることが決まり、実際に研修がスタートすると、さすがに毎日は疲れます。でも1か月も経てば意外にいろいろと慣れてくるものです。毎日クタクタになりながら、心も体も満たす充実感へと繋がっていききました。

## 実際に作業してみて

吉野川が育む土壌に恵まれているというメリットはあるにしても、これほどまでに立派な野菜たちが毎日たくさん実る現場で過ごしていると、自家採種や良質な土、適切な管理をしつかりしていれば肥料がなくても作物は十分育つことを実感できました。

経営面が安定しているのには理由がありました。きちんと日々のデータを取って次への改善につなげたり、収穫や出荷の効率化をとことん追及したりと、（言い尽くせないのですが）20年積み重ねてきた努力と工夫があることを日々の作業を通じて身をもって勉強することができました。また規模が大きかったお陰で、あのスケール感を持って独立することができ、独立後にここでの研修経験が大きな財産になっていることに気がきました。

研修中は朝から晩まで畑に出ています。冬は朝7時、夏は5時スタートですが、昼休憩は季節に合わせて1時間、4時間とたっぷり取れるので慣れない





外の作業もそれほど苦にはなりません。朝一番のミーティングで作業の内容や段取りを確認して、その後は数人のグループに分かれて畑作業に向かいます。毎日の収穫量がとても多いので、だいたい午前中いっぱいまで収穫があり、その後播種や除草な

ど他の作業に当たりました。先輩社員や他の研修生と一緒に作業をすることが多いので、先輩の動きや疑問点などはすぐに聞くことができ、農業未経験者でも比較的早くコツをつかむことができましたように思います。例えば、収穫のスピードを他の研修生と比較することで、自分が遅いのか早いのか、丁寧なのか雑なのか、客観的に把握することができました。自分一人ではなかなか気づかないことも、みんなで作業すると洗練されて良い方向に落ち着いていくような気がしました。年齢や背景は違えど、同じ場所で研修した研修生たちは同じ未来を見る同志のような気がして、負けられないという心のライバルであり、頑張ってほしいと支えあう仲間でもあります。

お昼ご飯は、毎日パートのお母さんの手作りです。ご飯・野菜・味噌汁とシンプルでめちゃくちゃ美味しい食事でした。

無肥料のこと、除草のこと、自家採種のこと、育苗や定植（苗を植える）のこと、ベトコン（小さい簡易ハウス）のこと、機械や道具のこと、出荷や栽培スケジュールのこと・・・全部が全部奥が深くて、毎日コツコツ、少しずつ学んでいると感じました。たった一粒の小さな種が野菜へと徐々に育ち、それを食べて自分たちが生かされている、生かされてきたという循環に感動し、都会育ちだった僕は子どもの頃にしか土に触れたぐらいしかありませんでしたが、自然農法で改めて大地の偉大さを感じました。昨年採った種がまた今年の命に繋がる、その当たり前の命の連鎖を自分の畑で表現してみたいと思いました。

慣行も含めた農業人口が減っているなかで、自然農法をしている人は、ほんのひとにぎりです。僕は以前野菜を販売していたから、有機農法の大変さや、規模感もよく分かりました。だからこそ、この規模で肥料や農薬を使わず野菜を育てているなんて、最初は「ホンマかなあ？」という気持ちもありました。

けれども、実際にこの目で見て、「ウソやろー！すごい！」に変わりました。自然農法で社員を雇い、販売網をもつてちゃんと経営している。これには本当に驚きました。若葉農園は梱包や野菜のレベルが極めて高く、独立後のよい指標になっています。







## 静岡県南伊豆で就農 「独立しました！」

夫婦で研修を終え、僕たちは2015年6月に静岡県で農家として独立しました。自然に恵まれた小さな里で、生命力いっぱい農作物を育てています。若葉農園の学びを生かして、元気な野菜を育てていきたいです。南伊豆の市之瀬という集落は、昔の里山を思わせる美しい景観で、海、山、川の循環があり、畦は石垣でできています。畑1枚の面積が大きくても二畝なので、効率的な農業という面ではかなり不利な面が多いです。とはいえ、家から畑まで徒歩1分、全ての畑がまとまって家の近くに確保でき、高齢化が進む地主さんは畑を喜んで貸してくれるので、やりようによっては面白い地域だと感じています。

独立して、「今日の作業は？」「来週は何をする？」と予定を立てることすら難しく、未だに悩める日々を過ごしています。生産面で失敗すれば、原因解決に対する仮説を立てて改善という試行錯誤、七転八倒のローテーションを繰り返すとともに、営業や販売、調達、勉強などを行う必要があります。経営者は心から休めることはないなあと思います。

ただ、畑で育った野菜は（親ばかりですが）きれいで美味しく、育つ姿を見るのは何ともいえない深い感動があります。野菜を食べたお客さんからの「美味しい」、「また食べたい」、「嫌いなものが食

べられるようになった」という声は、何物にも代えられない励みになっていて、食を背負う農業の意義を感じています。

現在は農業経営をきちんと安定させることを最優先目標としています。設備も資金も経験も乏しく地域の気候にも疎いので、多品目栽培にはまだまだ課題は山積みですが、野菜を購入してくれる方が増えてきて地域での知名度も上がってきたので、この1年は夫婦でよく頑張れた方だと思っています。将来は、自然農法の農家を機軸として、この地に、気持ちの良い村を作りたいと思っています。海や山や川や森といった自然の循環、自然農法の野菜、古民家民宿、多様な動植物、エネルギーなど、色んな繋がりをここで実感できるような場を作りたいです。そして、自分達が都会で経験したような疑問を持つている人、都会じゃなくて田舎に住みたい人、気持ちいい暮らしがしたい人、次世代に何を残したいのか考えている人への何かのきっかけになればいいなあと思っています。

独立して思うことは、多くの方が農業研修のチャンスは一回きりでしようし、独立してから、あの時どうしていたかなと悩むことが多々あります。可能なら研修期間は長い方がいいと思います。会社全体がとてもアットホームな環境で、とても良い経験ができるので、独立後僕たちは、自然農法の研修先を探している人に出会ったら真っ先に若葉農園をお勧めしています。



### 【プロフィール】

1979年大阪に生まれる。精密機械メーカーの知財部に勤務していたが、就農を目指し婚約者とともに若葉農園へ。2014年4月から翌年5月まで、1年2か月の研修の後、2015年6月、伊豆半島の最南端、静岡県賀茂郡南伊豆町市之瀬で独立。5反の農地で「自然農園 日本晴」を開始する。

夏はトマト、ズッキーニ、ナス、オクラなど、冬は大根、蕪、人参、小松菜、水菜など、30～40種類の作物を栽培している。今秋から作付け面積を8反に拡大し、人参、春菊、じゃがいも、スナックエンドウ、空豆などの自家採種にも取り組んでいる。今夏は若葉農園から分けてもらった種から、ズッキーニ、キュウリ、スイカの種採りにも挑戦した。



### 【問い合わせ先】

自然農園 日本晴 (にほんばれ)  
〒415-0325 静岡県賀茂郡南伊豆町市之瀬  
電話 0558-64-8877  
携帯 080-3452-1919  
E mail: info@nihonbarefarm.com  
blog: <http://bhagavad.meter.jp/blog/>